



ネットワークナース通信 vol.29

令和5年12月発行



「在宅から施設入所のタイミング」

平素は格別のご贔屓にあずかり、誠にありがとうございます。

寒さと空気の乾燥も本格的になり、インフルエンザやコロナウイルスなどの感染症に罹る人が増えていきます。体調管理を引き続き考えながら、換気と外出時のマスク着用や外出後のうがい手洗いの励行をお願い致します。皆様が安心して療養生活できます様、お手伝いをさせていただきますとともに、笑顔で新年を迎えることが出来ますようお祈り申し上げます。

随時、スタッフを募集しております。在宅医療、訪問看護に興味のある方、一緒に働きたい方、推薦したい人をご存知の方、是非ご一報下さい。今後ともご声援、宜しく願い申し上げます。

今回は「何が何でも在宅ではない。安全な棲家を施設と決めた其々のタイミング」を3つの事例で紹介させていただきます。ターニングポイントのタイミングはどこなのか考えさせられました。

ホームページも開設しております。『ネットワーク訪問ナースステーション』で検索すると、一番上に出てきますので、是非覗いてくださると嬉しいです。今後ともよろしくお願い申し上げます。(鳩山)



三名とも少しでも長く自宅で過ごしたいと希望していた。

①N様。77歳。女性。アルツハイマー型認知症と精神疾患、未治療。成人後見人利用。兄と二人暮らしだが、兄も被害妄想あり、兄の介護力は期待できない。徘徊頻回で転倒しその度、頭部・顔面受傷。病院に救急搬送され、裂傷縫合。創部連日消毒で訪問。衣食住のセルフケアが全く出来ず、家中がゴミ屋敷状態で身体や衣類の汚染酷く、食事や水分も摂れてない状態。また、夜型の生活スタイルで、午前中は不機嫌で人格変貌し、介護拒否するため夕方の訪問。裂傷や掻痒感で出血することは頻回。入浴や処置、都度の内服管理、食事、環境整備を実施。皮膚トラブルと掻破痕が絶えない為軟膏処置実施。食生活や排泄状態・睡眠状態等観察実施。兄も訪問者を快く受け入れるようになった。ご意向は「二人でずーと暮らしたい」を叶えるため支援したが、認知症状が次第に重症化して、幻聴と昼夜逆転で夜間徘徊とその都度の転倒・受傷、火の不始末など危険行動も増えてきたため、在宅生活継続の限界と判断した。人からの介助を拒まず、笑顔が多くなった為、申し込んでいた特養ホームへ入所。



②O様。80歳。女性。アルツハイマー型認知症・発作性心房細動、治療中。犬と同居。夫が急死ご病状悪化。衣食住のセルフケア全くできず、毎日徘徊し帰宅できていたが、帰宅できなくなり、靴にGPS装着。二人の娘が介護していたが疲弊し、看護師介入。少しずつ内服管理、保清、更衣、食事等の介入で、人を拒否していたが受け入れた。愛犬急死で1日落胆したが、復帰。通所にも慣れてきた。徘徊で帰宅できなくなり警察沙汰になり、交通事故の危険から回避するためと娘たちが疲弊したため、本人に入所を伝えず、突然有料老人ホームに入所。



③P様。95歳。女性。レビー小体型認知症・心房細動。治療中。生活保護受給者。息子と同居。通所とヘルパーさんが生活援助。幻覚、幻聴酷く徘徊を繰り返す。内服薬管理や褥瘡等皮膚トラブルの処置で介入。看護拒否あったが傾聴で入浴もでき、落ち着いていた。別居中の孫が遊びに来るのが楽しみ。息子は糖尿病と精神疾患あり、全く介護しようとしない。正常な判断つかず、徘徊するP様に暴言暴力をふるい、P様が身の危険を感じ助けてくれと訴え、住み慣れた家が危険なところとなり、養護施設に措置入所。その後、特養ホーム入所。



自宅か施設入所かを決めるタイミングは難しく、自宅に居たいご意向と安全であるかどうかを見極めることが必要で、ご家族の状況と関係者の連携・情報交換の必要性も認識させられました。どこで暮らしても、まずはご本人が穏やかに安心できる安全な場所で生活できることが一番大事な事で、ご家族の安心も必要なのだと解りました。(鳩山)

24時間対応

何でもご相談ください

ターミナルケア・お看取りも
対応いたします

訪問地域

世田谷区

松原・代田・代沢・豪徳寺・梅ヶ丘・宮坂・経堂・赤堤

杉並区

永福・和泉・浜田山・下高井戸

その他の地域もぜひご相談ください！



〒156-0043

世田谷区松原2-41-15エテルノ明大前203

TEL:03-6379-0683/6762-2272

FAX:03-6767-3703

/03-6379-0684

